

全国ネット通信

トップダウン型ガバナンスの終焉 —低炭素時代のネットワークの役目

中央環境審議会地球環境部会中長期ロードマップ小委員会 委員長
(一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット 運営委員会 委員) 西岡 秀三



温暖化対策、低炭素社会、グリーン成長、いろいろな言い方があるが、とにかく大変な転換をわれわれ世代が始めなければならない。エネルギー漬け、なにかずく化石燃料に頼りきった社会をほぼゼロエミッションにしなければ、人類生存基盤である気候の安定が得られないのである。歴史上大転換の時期にある。

温室効果ガスを排出しているのは、需要側のモノの使用である。食料品のように右から左の消費もあり、住宅・ビルや道路のような都市インフラに蓄積されるモノもある。更には、冷蔵庫、テレビ、自動車のようにエネルギーを使ってわれわれの快適な生活を支えるモノがある。モノの大量消費をしているのはすべての生活者でありオフィスでのビジネスである。ならば低炭素社会を実現しようとしているとき、モノを消費しエネルギーを使う側、そしてそこに直結する流通業、家庭用品・業務用品の製造業のなすべき役目はまことに大きく、責任も重い。物の消費を半分にすればその生産・販売に要するエネルギーは半分でよくなる。効率のいい電化商品を作り売れば、それだけエネルギー削減に役立つ。需要側でのエネルギー消費が減れば、エネルギー供給側はエネルギー生産量を増やす必要がなくなる。カギは需要側が握っているのである。

都市行政の役目も大きい。地震後の計画停電で身の回りを見渡してみた人は多いであろう。高層ビルではエレベーターが止められたらもう住めない。交差点の信号が止まったら自動車は動かせない。頼れるのは足だけ、歩いてすごせる街がほしい。買い置きの食料はあっても料理が出来ない。近郊からの食料確保もある。今の都市生活はもうエネルギーなしには動かなくなって、そのシステムに身を縛られてしまっている。エネルギーで安全と便利さを確保しようとした社会システム全体が、かえって柔軟性を失い脆弱性を増している。

地震でもう一つわかったことは、行政の手が届かない部分があちこちにあることである。緊急・大転換時には、

国民の各層がそれぞれに自分で正しい知識を学び、日ごろからそれぞれ確かな判断を養っておき、他の人とも語り合い、自ら行動しなければならないことである。国民ひとりひとりが、行動する力を蓄えておかねばならない。

これまでの社会は、供給者主体・消費者保護の思想でのガバナンスであったと須田春海さんに習った。確かにわれわれは、専門性に裏付けられたエネルギー供給側の確実な供給に身を任せ、消費は景気を支える美德とおだてられ、ぬくぬくと消費生活を楽しみ、供給側に瑕疵があれば文句をいい、それを行政が保護するというガバナンスに満足してきたのではないか。低炭素社会をつくるには需要側がしっかりしないとイケない。

地震時のような短期の対応であれ、温暖化のような長期の大転換であれ、地域社会や近代社会を替えるような大きな環境変化を起きるときは、行政が命令しカネを配り社会を動かすという既存の統治システムだけでは対応できない。すべてのステークホルダーが動かねばならない。行政は、むしろみんなに力をつけ、それを引き出して一つのおおきな力にまとめる仲介者 (facilitator) の役目をするようになる。個人が、そしてコミュニティ、地域というボトムアップの主体が、トップダウンの指令待ちではなく、自ら動いて改革を進めるときである。国際社会が目標を決め、国が中期目標を決め、それを待って地域が計画する。こういったトップダウンだけではどうもものが動かない。今は、多層に分かれたすべてのレベルで、多重に張り巡らされたネットワークで結ばれた行政機関、産業、企業、都市、住民のあらゆるステークホルダーが、互いに注文をつけあい、協力し合いながら、大きなうねりを作ってゆく。そういった時代に入っているのである。

自然は人の論議が終わるのを待ってはくれない。本ネットワークは、口だけの世界、目先の損得にひきずられていつまでも結論を出さない国際・国内政治に見切りをつけて、行動で結果を出すのが役目である。われわれの責任を自覚し、行動しよう。

(平成23年3月1日 第1回社員総会承認)

全国地球温暖化防止活動
推進センター事業の推進

[illegible]

**年間スケジュール
(予定)**

低炭素生活のイメージを
地球温暖化防止のイメージを
地球温暖化防止のイメージを
地球温暖化防止のイメージを

二酸化炭素削減を!
これからも楽しもう!

CO2削減を!
地球を救おう!

JNCCA NEWS PAPER

東北地方太平洋沖地震に伴う電力不足に対応するための「家庭ですぐ出来る節電 21」を提案

節電 21

3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震により、東北や関東地方の地球温暖化防止活動推進センターの事務所でも被害が確認されました。多くの被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を願っています。

現在、当該地域では電力需要のバランスが極めて厳しい状況になっています。今、私たちができることのひとつは「節電」です。

私たちひとりひとりが少しずつでも節電の努力をすることによって、被災地の復興と安定した電力供給、さらには地球温暖化防止へとつながります。

全国ネットでは、昨年度の「うちエコ診断事業」の対策効果にもとづいて、「家庭ですぐ出来る節電21」を提案しています。この震災への対応として家庭ですぐに出来る対策を優先しているため、冬期における対策を中心に、また、省エネ家電等への買い替えは除いた項目で構成されています。

この危機を皆で克服するとともに、低炭素社会づくりに向けてライフスタイルを見直しましょう。

対象	分野	対策	1時間あたりの削減消費電力量の目安 (Wh)
リビング	暖房 (注1、2)	1. 暖房の温度設定を控えめ(20℃)にする。	419
		2. こたつやホットカーペットなどの部分暖房を活用する。	511
		3. 暖房時に、窓に空気層のある断熱シートを貼る。	232
		4. 暖房時にカーテンを閉める。	100
		5. エアコンのフィルターを掃除する。	53
		6. 暖房の使用時間を可能なかぎり短くする。(就寝前に1時間消すなど)	1,665
		7. 暖房時に部屋のドアやふすまを閉め、暖房範囲を小さくする。	362
		8. 暖房時に家族がいっしょの部屋で過ごす。	1,790
	照明	9. 照明を使う時間を可能なかぎり短くする。	158
	テレビ	10. テレビの画面を明るすぎないように調整する。	34
台所	保温	11. 電気ポットの保温をやめる。	30
	調理	12. 炊飯ジャーの保温をやめる。	30
	冷蔵庫	13. 冷蔵庫を壁から適切な距離を離す。	8
		14. 冷蔵庫の温度設定を強から中にする。	9
	食器洗い (注1)	15. 食器洗いでお湯を流しっぱなしにしない。	(注3)
お風呂 洗濯 トイレ	お風呂 (注1)	16. シャワーの利用時間を可能なかぎり短くする。	(注3)
		17. お風呂の自動保温を止める。	185
	洗濯	18. 衣類乾燥機や洗濯機の乾燥機能を使わない。	912
	トイレ	19. 保温便座の温度設定を下げる。	4
		20. 使わないときには便座のふたを閉める。	4
その他	待機電力	21. 使用していない電気機器はコンセントから抜き、待機電力を減らす。	14

注1：暖房や給湯は、電気を使用している場合に限り電気の削減につながります。

注2：暖房項目については、複数取り組んでも単純に加算されるわけではありません。

注3：電気の給湯器は、モード設定や利用形態により、削減できる消費電力が大きく異なります。

地域の活動紹介

今回は、低炭素地域づくり全国フォーラム～低炭素杯2011～の環境大臣賞グランプリを受賞した「環境NPOオフィス町内会」の代表 半谷栄寿さんにお話を聞きました。

低炭素杯2011環境大臣賞グランプリを受賞されて、率直な感想をお聞かせください。

「森の町内会」の5年間の活動を直接、環境分野の第一人者である審査員の先生方の目の前でプレゼンさせていただき、深い認識を頂戴したということに、有り難い達成感を持っています。

取り組みについて、簡単にお聞かせください。

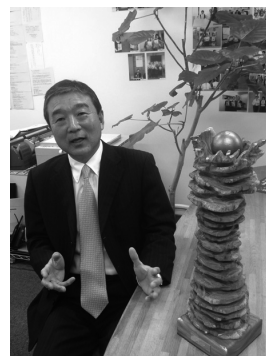
「森の町内会」活動は、サポーター企業に使用してもらった「間伐に寄与する紙」に上乗せした支援費の全額(15円/kg)を間伐促進に充当する新たな仕組みです。現在、東京をはじめとした4地域で207社が参加し、紙の使用量は835t/年に及び、58ha/年の間伐を促進し、491t-CO₂/年を吸収する元気な森づくりに貢献しています。

低炭素杯グランプリを受賞されて、周囲の反響はありましたか？

想像以上の反響がありました。サポーター企業・森林組合・製紙会社の3者の「チーム・森の町内会」で受賞しました、という旨の結果報告をメールで送信したところ、電報やメールなど、40通ほどの反響をいただきました。サポーター企業からは「ワクワク感が伝播してきた」「一体感を感じた」「社内全員に周知した」などの声をいただき、また、森林組合からは「山側の誇りと責任を感じる」というメッセージも届きました。「モチベーションを高める」グランプリのチカラを改めて感じています。



◀ 壁にはサポーター企業・森林組合・製紙会社などからの電報やメールが貼られていました



▲ 右はグランプリトロフィー

森の町内会の活動を、今後どのように発展させ、広めていこうとされていますか？

全国各地に国産材の地産地消を広めていきたいですね。国産材を使う市場を構築し、産業としての林業の再生を支援することがCO₂を吸収する元気な森づくりにつながります。「木は切ってはいけない」ではなく「地域の木を使うことにより地域の森を健全に育む」というマインドを消費者に持ってもらえるよう、活動地域を拡大していきます。

地域で活動されている方にメッセージを！

自分たちの活動をどう相手に伝えるか？“思い”だけではなく、仕組みやデータを形にした“活動の見える化”や、地域での“パートナーシップネットワークづくり”を模索している方は、ぜひ、お声がけください。私達の今までの蓄積やノウハウをほかの団体さんに伝えることができれば、今回の低炭素杯2011のグランプリに対する恩返しになると思っています。

貸出教材をご活用ください

全国ネットでは、地球温暖化についてわかりやすく伝え、地球温暖化防止に向けた行動への一歩を踏み出すためのきっかけとなる参加型の学習教材「活動プログラム」等のツールの貸出を行っています。地球温暖化の情報を見聞きするだけでなく、参加者が頭や体を使ったりグループワークをしながら温暖化問題を考え、活動へのきっかけとなるように工夫されたツールを各種ご用意しています。

- 貸出物：パネルセット29種類、タペストリー9種類、紙しばい、ゲーム、DVDなど
- 貸出料金：原則2週間まで
- 料金：無料（送料のみご負担ください）

F01 タペストリー「さまざまな温度」

リニューアル!

「いままでに記録した世界の最高気温は?」「温室効果ガスがなかった場合の地球の平均気温は?」といった地球温暖化に関する温度から、「人間が仮死状態になる体温って?」「雷の稲妻の温度は?」などなど…私たちと密接に関係しつつも、意外と知らない温度まで、様々な温度をまとめたタペストリーです。「温度」に興味を持ち、その温度が地球温暖化によって変化し影響しているのかを考えるきっかけに、ぜひご活用ください!

※F07 CO2タペストリーもリニューアルしました!

2.8℃ 地球の平均気温	20000℃以上 太陽の表面温度
約1200℃ 火山のマグマの温度	907℃ アルミの融点(常温中)
約10℃ 人間の体温	2.9℃ 雷の稲妻の温度
370℃ 太陽の中心の温度	2600℃ 宇宙空間の温度
22℃ 人間の体温	28℃ 宇宙空間の温度
36℃ 人間の体温	37.5℃ 人間の体温

東北地方太平洋沖地震にかかる 救援物資支援活動について

全国ネットでは東京都地球温暖化防止活動推進センターの協力のもと「東北地方太平洋沖地震に係る救援物資支援活動」を始動しました。その後、3月27日(日)午後、救援物資第1陣として東京都庁「東京都救援物資受付」に搬入させて頂きました。多くの方の支援の“こころ”を形として結集し、被災地に届けさせて頂きました。取り急ぎ、ご協力のお礼を申し上げます。今後も集積状況をみながら第2陣、第3陣と搬入して行きたいと思っております。

… 送付をお願いする救難物資 ……………

当面、整理の都合から、赤ちゃん用品のうち
「紙おむつ(新生児、S、M、L、ビッグサイズ)」「おしり拭き」に限らせて頂きます。

※一度開封した物は、受け付けできませんのでご容赦願います。
※全国ネット事務局あてにご送付ください。

なお、送付費用は送付者の負担をお願いします。



▲ 救援物資搬入の様子



▲ 続々と救援物資が集まっています

ウェブサイトをリリースしました



3月1日に全国ネットのウェブサイトをリリースしました。

最新の情報や賛助会員入会案内など、タイムリーなコンテンツをアップしています。ぜひごらんください。

<http://www.zenkoku-net.org/>

地球温暖化 全国ネット 検索

編集後記

東北関東大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。3月11日当日事務局でも大変な揺れがありました。エレベーターが止まり、ビルに亀裂が入り、その直後から都内の交通機関がストップとなり、当夜、職員は、徒歩での帰宅、もしくは事務所に宿泊となりました。以後、都内は余震、原発事故に伴う放射能、計画停電と様々な制約を余儀なくされ(被災者の方々と比較してはいけませんが)今に至っています。こうしたなか、被災地域の地域センターの安否、被害状況の把握、計画節電に対する“節電21”の発表・広報、被災情報掲示板のアップ、救援物資支援など今できる事務局としての活動を進めてきました。私は阪神・淡路大震災発生の日午後、原付バイクで大阪から神戸に亀裂の入った道路を幾度も転倒しながら、神戸の街を走り、その悲惨な惨状を目の当たりにし、茫然自失となりました。今回の東北の惨状を報道するにつけ、被災者の方々の心情は察するにあまりあるものがあります。これから復旧、復興に向けて長期戦が予測されます。全国ネットにとっても、私ももしかできない地域センター支援とは何か、今、何をなすべきかを常に念頭におきつつ、また一方で大震災の日を境にして温暖化対策の新たな視点、行動とは何かを模索しながら新年度の活動を進めてまいりたいと思います。引き続きのご支援、ご協力をお願いします。

事務局長・専務理事 菊井 順一

エコアナウンサー

櫻田彩子の ミニコラム

櫻田 彩子 プロフィール
Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。
テレビ朝日「ちい散歩」レポーターほか、
低炭素杯2011での司会・進行など。



私も
賛助会員
です!

地震発生から4日ぶりに実家と電話が繋がった時は、気が抜けました。実家は近所と助け合いながら何とかやっているとのことでした。時間が経つにつれ、友人の安否がわかるようになり、悲しい知らせも襲って来ました。被災地ではなく東京にいる自分の無力さにもがいている時、何人かの友人が「働いてくれてありがとう!」と言ってくれました。そちらのほうはずっと大変なのに。友人は被災地の現状を目の当たりにした時、働ける人が働いて何とか経済を回して欲しい、と思ったそうです。

私はその言葉で、被災地にいない私達が日常を送り、働き、その波紋が被災地に繋がるように意識することの大切さを思い知りました。

先日の低炭素杯2011の司会を通して、低炭素社会に向けての活動を地域で頑張る皆さんの喜びや発見、学びの成果や暮らしへの愛情を全国へ広げ、繋がる場に参加させていただきました。今こそ私達が培ってきたエコのセンスとネットワークと気持ちを添える想像力が、生活を前に進める力になるのではないのでしょうか。

今を乗り越えて、全国の皆さんの輝く笑顔に会えることを心より楽しみにしています。

編集・発行

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット

〒101-0053 東京都千代田区神田美土代町9-17 神田第三中央ビル5F

TEL. 03-6273-7785 FAX. 03-5280-8100 WEB. <http://www.zenkoku-net.org/>

R100
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

PRINTED WITH
SOY INK
Soy Inks are a safer choice for your business.